

教員の養成に係る教育の質の向上に係る取り組み

比治山大学では、全学的な取り組みと学科独自の取り組みを、1年次からカリキュラム内外において、教員養成に係る資質の向上をめざして実施している。

① 教育委員会との連携事業・教育実習・学校支援ボランティア・教師塾（広島県及び広島市）

教育委員会と大学は連携事業として、教育実習・介護等体験実習と学校支援ボランティアの2点を実施し、優れた実践的指導力を身につけた質の高い教員の養成・育成を目指している。

1点目は、教育実習と介護等体験実習である。近隣大学で参集している広島地区大学教育実習研究連絡協議会において、広島県教育委員会や市町教育委員会、受け入れ学校と連携を図りながら、毎年、教育実習などの成果や課題を共有し、教職学生の一層の質の向上を図る取り組みを進めている。

2点目は、学校支援ボランティアである。市町教育委員会、幼稚園、中学校、小学校、特別支援学校と大学間で密に連携を図っており、毎年、受け入れ学校は約60校、参加する教職学生は約110名となっている。また、ボランティア学生を対象にした教育委員会指導主事による指導講座にも参加している。

3点目は、教育委員会主催の教師塾への参加である。平成29年度から広島県及び広島市でそれぞれ教師塾が始まり、県主催教師養成塾へは、大学1・2年（H30）の学生、市主催ひろしま未来教師セミナーへは、大学2・3年（H30）の学生約60名が参加している。

② 教育実習の改善・充実・教育実習スタンダード

平成18年、中央教育審議会答申「教職実践演習(仮称)」の提言に基づき、本学では、中央教育審議会が提示した「到達目標及び目標到達の確認指標」に準拠した「比治山大学・比治山大学短期大学部教育実習スタンダード」を作成している。作成に当たっては、具体的な「中教審到達目標」の事項4項目に加えて各学科の特性に応じた項目を設けており、各項目にさらに詳細な評価規準を作成している。また、年間を通して学生指導に使用するとともに、評価規準については見直しを図り、PDCAサイクルで教職学生の指導をすすめている。

③ 学びのガイドブック

教師になる夢をもった学生が、資質や能力を身に付けた教師になれるように、大学(短大)1年次から、どのような授業を履修し、どのように学び進めることが必要かを教職学生にガイドするためのテキストを作成している。このガイドブックは、1年次教職に関する科目「教職入門」の履修学生用のテキストとし、「履修カルテ」とともに卒業するまでさまざまな教職学生の指導場面で使用している。

④ 教員採用試験対策講座

教師を目指す学生を総合的に指導支援するために教職指導センターを設置している。

教職全般に関する指導や個別相談を行い、教員採用試験対策や教職への就職支援を進めている。

教員採用試験対策講座については、教科教養指導、教職教養指導、面接指導、指導案作成指導、模擬授業指導等、教師としての能力育成の集大成と位置付けている。